
miraculously - **一週間の奇跡** -

瑠璃娘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

miraculously - 一週間の奇跡 -

【Nコード】

N5567R

【作者名】

瑠璃娘

【あらすじ】

もしも、一週間の期限があるのならば

あの人に、出会えるのなら

幸せが、訪れるならば

あなたは

どうしますか？

あの日、

ああ

私はなんて不幸なんだろう

私はなんて幸福なんだろう

前方にある潰れた親の亡骸

赤く動かない私の手足

に変わり果て

白い綺麗な服は薄汚れた真紅

赤くぼやけた視界の中で

た私の中で

ガードレールと標識を見つけ

どす黒い何かが蠢いた

赤い何かが蠢いた

を)

(本当は貴方のこと

かった)

(殺したかった) (愛した

(でもね)

(また会える日が

(来る) (来るわ)

(絶対)

(だからその時まで)

(殺されないでいて) (愛や

れないでいて)

(頂戴?)

そして、男は自販機と共に、空を飛んだ。

ガシャーン！！

ゆらり、と煙の中から現れたのは、池袋で敵に回してはいけない男

そう、彼こそが平和島静雄だ。

彼はいつ、どこで見ても、凄い。

いつもは道路標識を手に喧嘩をしているのだが、今日は自販機らしい。

酷い時は、ガードレールや車なども投げってしまうところがある。

私はその光景を、ここ 池袋 来良総合医科大学病院から毎日見ている。

しかし、私が居る病室からは、街全体は見渡せない。

なのに何故、いつ彼が池袋で暴れたか知っているのかというと、

ガラッ

「よお」

「今日も来てくれたんですね、

平和島くん。」

私のもとへ、平和島静雄が毎日訪れるからである。

平和島くんは私のクラスメイトで、毎日放課後にお見舞いに来てる。

折原くんとは仲がよろしくなく、ほぼ毎日、シャツにナイフで切られた痕がある。

それを私が指摘すると、平和島くんは、少し機嫌を悪くさせて、肩間に皺をよせる。

その様子が可笑しくて笑うと、彼は、照れたようにそっぽを向く。

「フフッ、今日はどうしたの？いつもより、機嫌がいいみたいだけど」

「ああ。よく分かったな。お前に、その…プレゼント、というか…」

「ホント！？嬉しい！」

「これなんだが…」

そう言っつて、私の手に小さいラッピングされた箱を置いた。
恥ずかしいのか、少し頬が赤く染まっている。

「いま開けていい？」

「ああ」

ドキドキしながら、箱を開けていった。

中には、清楚な感じのヘアピンが入っていた。

白から淡い紫とグラデーシヨンのピンに、薄い桃色の桜の飾りが付
けられていて、とても綺麗だ。

「きれい……」

「そんなもんで悪いんだが……」

「ううん、嬉しい！派手な物よりも、こっぴう落ち着いた感じの物
が好き。」

それに、ちょうどピン欲しかったの！ありがとう！」

「喜んでもらえてよかったぜ。買った甲斐があるわ」

そう言って、彼は、優しく微笑んだ。

一日目は贈りモノ

あなたの、その笑った顔が好きです。

一日目は贈りモノ（後書き）

やっと全部書いた！結構修正したけど）

今学校で授業中ネタせつせと書いているので、前よりは更新できるかも。

勉強？知らんよ、そんなモン

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5567r/>

miraculously - 一週間の奇跡 -

2011年11月12日09時49分発行